

# 2024年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

- 総評は、報告書の総評における意見・課題を抜き出して中項目に分けた。
- 2024年度報告書における意見・課題は新規課題か継続課題かを振り分け、担当している部門を明記した。  
新規の担当は、継続課題との関連と意見・課題の内容と部署の関連性から記載した。
- 新規課題にはアンダーラインを引いて掲載した。

※1: 2023年度の意見・課題への取り組み(年度末点検)をもとに、2024年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み(2025年度活動)の進め方を  
 ※2: 中間点検は第2回学校関係者評価委員会に報告予定。  
 ※3: 年度末点検は次年度第1学校関係者評価委員会に報告予定。

大項目	中項目	2024年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1
重点目標	2. 重点目標と達成するための計画・方法 (1)学生確保と学科ラインナップの検討	○魅力のあるカリキュラムと高い教育実績が募集に結びつく。そのような好循環を生み出す施策について、検討を重ねていただきたい。 (2024年度総評)	新規	校長	■現場で求められる専門性に付加すべき事項は、教育課程編成委員会でご意見いただいている。 ■昨今の学生の社会性(特にメンタル面)については、日常の学校生活の中で体得していくものである。専門家であるカウンセラーに協力を仰ぎ、また教員同士の研鑽を重ね、心身面での成長を促す日常を通じ成長させていく。
1 教育理念・目的・育成人材像	(2)育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	○技術・技能・知識を身につけて、医療関連・介護関連のスタッフとして十分力を発揮し、自立できるような学生を育ててほしい。(2023年度総評)	継続	医療秘書科	■医療秘書としての専門知識を身につけ、医療現場で求められる人材に成長していることを実感できるようなカリキュラムの策定を、随時行う。 ■専門知識・技能の習得と並行し、1年次からキャリア教育・社会人化教育をベースとした指導を目指す。
			継続	医療事務IT科	■【医療事務】と【IT】の最新の専門知識や資格を身につけ、医療ITのスキルを活かして病院の未来を担う人材を育成するためのカリキュラムが用意されている。卒業までに段階的にステップアップできるようサポートし、卒業後も目的をもって成長できるような教材を用意し、丁寧な指導を心がけている。
			継続	診療情報管理科	■診療情報管理士の専門知識や関連する資格を身につけ、そのスキルを活かして病院の未来を担う人材を育成するためのカリキュラムが用意されている。卒業までに段階的にステップアップできるようサポートし、卒業後も目的をもって成長できるような教材を用意し、丁寧な指導を心がけている。
			継続	くすり・調剤事務科	■くすり・調剤・美容に関する幅広い知識・技術を身につけることにより、様々な分野で活躍できる人材の育成を目指す。 ■資格取得に必要な知識だけでなく、働くうえで求められる応対方法や実技なども身につけることができるよう、カリキュラムの策定を実施する。 ■実習を通じて職種に関する理解を深めることにより、職業観を育成し就職後のミスマッチを減少させる。
			継続	介護福祉科	■2025年度もディプロマポリシーとして「チームシップ(自分もチームもともに成長できるように挑戦する!)」を実践できる。人権擁護に基づいた職業倫理に合う行動を選択できる。(共有できる・協働できる・創造できる・満足解思考ができる)を掲げ、継続した取り組みを展開する。
			継続	看護科	■掲げた教育目標を目指し取り組んでいく。2025年度は臨地実習先が変更となり様々な医療機関で実習を経験する。その経験の中で培う看護実践力と専門職業人としての能力を育成していく。
3 教育活動	2. 教育方法・評価等 (1)教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	○在学中に社会人としてのコミュニケーションスキルが身につくような授業の仕組みづくりに期待したい。 ○発表形式の授業は、自分の考えを人前で話すことの慣れが就職活動や仕事に役立つと言われている。引き続きの取り組みが望まれる。	継続	医療秘書科	■講義科目・演習科目において、積極的にグループワーク等を取り入れ、グループの中で相手と協調することなどを主体的に取り組む気持ちを引き出すことを目指す。 ■学校行事、学科イベントを通し、対人スキルを磨き、協働し人を思いやる気持ちを表現できるよう、教員は支援的な関与を心がける。
			継続	医療事務IT科	■授業では、グループワークやディスカッションを取り入れ、社会人として必要なコミュニケーションスキルを学んでいる。 また、他者と適切なコミュニケーションをとり、良好な人間関係を築くために必要な要素を学んでいる。 ■学校生活における様々な場面において、自分の考えを他者に理解してもらえるよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を経て意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。

			継続	診療情報管理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>■授業ではグループワークやディスカッションを取り入れ、社会人として必要なコミュニケーションスキルを学んでいる。</li> <li>また、他者と適切なコミュニケーションをとり、良好な人間関係を築くために必要な要素を学んでいる。</li> </ul>
			継続	くすり・調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> <li>■各授業の状況に合わせてペアワークやグループワークを段階的に取り入れ、他者とのコミュニケーションや意見交換ができるように授業担当教員に依頼している。</li> <li>■キャリアデザインやパソコン演習などの授業において、学習した内容を発表する機会を確保している。</li> </ul>
			継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> <li>■他者との関りを通じて「協働」を体験できる授業を展開している。具体的には臨地実習を2年間で480時間実施。ケーススタディ発表会(2年間の学習成果を発表する)を2年次の最終授業として行なっている。また、フィールドワーク、看護科との合同授業を通して、地域に暮らす人や他職種と関わる機会を設けている。</li> </ul>
			継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> <li>■コミュニケーションスキルは授業・実習などにおいて様々な場面での体験を通じ学習している。また、対象とのコミュニケーション場面は患者に限らず指導者などチームとしてのコミュニケーション場面もある。時間短縮・簡潔さを求められるなど様々な経験を通じてスキルアップする場があり、専門職業人としての学修をしている。</li> </ul>
4 学修成果	2. 資格、免許の取得率	○資格・検定取得は、専門学校教育の大きなテーマの一つであることから、その取り組みと成果を本校の強みとして謳えるように、引き続きしっかりと進めてほしい。	継続	校長	<ul style="list-style-type: none"> <li>■年度初めに、各学科の学科運営方針において各種検定・国家資格の合格率目標を掲げている。その目標達成に向けて、学科、教員が取り組んでいる。</li> </ul>
			継続	医療秘書科	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学科運営計画に示した卒業時検定合格率の達成に向け、一部科目については進捗別クラス編成を継続する。</li> <li>■2年次の後期まで検定に挑戦し続けるモチベーションを持てるような授業内容や学生への指導を心がけ、検定上位級の受験者数を増やし伸び残しのない指導を継続する。</li> </ul>
			継続	医療事務IT科	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験、医療秘書検定の取得率の増加を目指す。より上位級の取得を推進するとともに、資格未取得のまま卒業させることのないよう尽力する。また業界ニーズの高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。医療情報基礎知識、ITパスポートの取得を目指し入学時より段階的に知識を増やしてゆく。</li> </ul>
			継続	診療情報管理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験、医療秘書検定の取得率の増加を目指す。より上位級の取得を推進するとともに、資格未取得のまま卒業させることのないよう尽力する。また業界ニーズの高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。医療情報技師能力検定、がん登録の取得を目指し、卒業後も勉強を続けてゆけるようにサポート体制を整える。</li> </ul>
			継続	くすり・調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学科が目標として掲げている資格や、さらに上位級に挑戦するように動機づけを行う。</li> <li>■学生が自身の成長や苦手な箇所を認識できるように問題演習の点数を継続的に計測し、その結果に基づいたアドバイスを実施する。</li> <li>■今年度より美容系の資格をより学生のニーズが高い資格へ変更している。また、登録販売者のカリキュラムを1年前期に集中させ、従来の2年次受験から1年次でも挑戦できるように変更し、資格取得率を高めている。</li> </ul>
			継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> <li>■国家資格の介護福祉士取得に向けた学習支援を、1年次後期から実施している。模擬試験を通算3回実施。2年次には国試対策講習を9月から始めている。受験直前対策講座を含め、3つの取り組みで合格に導いている。</li> </ul>
			継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> <li>■全員の国家試験合格を目指し取り組んでいる。実習期間の変更にともない夏休みが変則的であることに加え、例年国家試験対策を講じていた時期に対策が出来ないなど進度的に厳しい状況ではあるが学生の自主性を確認しつつ低学力者だけではなく学生全員をサポートできる体制で取り組んでいる。</li> </ul>
				3. 卒業生の社会的評価	○就職した卒業生の情報収集をし、積極的に発信しアピールして欲しい。(2024年度総評)
5 学生支援	2. 中途退学への対応	○入学後の手厚いサポート等、退学防止の取り組みに努めてほしい。(2022年度総評)	継続	学生委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>■専門領域の異なるカウンセラーを3人配置し、相談室を構え学生のニーズに応えられるよう環境を維持している。また個々の学習スタイルにも配慮し「静かに学べる個室ペース学習室」を常設している。クラス担任に対するカウンセラーによるサポートも実施し、相談支援体制の質を担保している。各学科で適宜情報共有を行い、クラス担任をサポートできる環境を維持継続している。</li> </ul>

4. 学生生活		○教育内容、学生の生活面等に対する心のケアを含め、すごく丁寧に支援されている。これを学校の強みとして継続していただきたい。 (2024年度総評)	新規	医療秘書科	■担任は5月中を目途に学生との個人面談を行い、学生の声に耳を傾け、丁寧にヒアリングを行う。 ■必要に応じて随時面談を行い、学生の心理面、学習面などのサポートを行う。また家庭や学生相談コーナー、保健室、合理的配慮検討委員会等と連携を取り、総合的に必要な支援を心がける。
			新規	医療事務IT科	■入学前の提出書類や面談記録などから学生を知るように努力している。また入学後の早い段階より、全学生と面談を実施し、状況を共有、担任だけではなく学科の全教員で学生を見守る体制をとっている。トラブルか、またはトラブルになりそうな場合には、速やかに各部署に連絡、保護者やカウンセラーの意見、協力を仰ぎながら、適切な対応を行うよう努めている。
			新規	診療情報管理科	■入学前の提出書類や面談記録などから学生を知るように努力している。また入学後の早い段階より、全学生と面談を実施し、状況を共有、担任だけではなく学科の全教員で学生を見守る体制をとっている。トラブルか、またはトラブルになりそうな場合には、速やかに各部署に連絡、保護者やカウンセラーの意見、協力を仰ぎながら、適切な対応を行うよう努めている。
			新規	くすり・調剤事務科	■各期に担任が面談を実施し、学生の状況把握に努めている。兼任講師とも欠席や授業の様子などを共有し、気になる学生については都度面談を実施している。 ■メンタル不調などについては、家庭の事情に配慮しつつ、保護者への連絡を早期に行うようにしている。学校と家庭が連携して学生をサポートする体制を重要視している。
			新規	介護福祉科	■入学時、進級時の個人面談の継続。「話しやすい関係づくり」を継続し、メンタル不調の早期発見早期対応を実現する。メンタルヘルスの基礎知識と対処法等、外部研修等を利活用し、支援の質を担保する。
			新規	看護科	■担任制をとり、かつ1年次は2名体制の担任として細やかな指導を行っている。また全学年前期・後期で担任面談などを行い学生個々の学習状況・生活状況・人間関係などの把握を行う様にしている。また、個別対応が必要な場合は教員間で共有し一貫した対応が出来るようにしている。特別な案件については本人に許可を取り保護者に連絡し状況について共有しながら指導にあたっている。加えて、4名の留学生については面談などを行い困りごとを共有し指導にあたっている。
7 学生の募集と受入れ	1. 学生募集活動	○仕事の魅力や就職率の高さをいかに高校教員や保護者に発信していくかが大事である。 (2023年度総評) ○SNSには、動画や先生方の表情から得られる安心感があるので、積極的に魅力を発信し、継続していただきたい。(2024年度総評)	新規 ／ 継続	広報室	■首都圏の重点校を中心に高校訪問を行い、仕事の魅力や就職率の高さを含め、高校教員にアピールする。また、SNSや発送物において入学対象者や保護者に発信していく。
9 法令等の遵守	2. 個人情報保護	○学生には、特にSNSについて、個人情報保護、プライバシー保護、守秘義務等の観点からの注意喚起が引き続き求められる。	継続	事務局長	■学生生活ガイドおよびオリエンテーションでの注意喚起にとどまらず、特に学外実習を中心にした学科毎の指導を進めていく。
			継続	学生委員会	■SNSを通じた犯罪被害の予防も含め、豊島警察と連携して個人情報保護に関する注意喚起と啓発を継続していく。
10 社会貢献・地域貢献	2. ボランティア活動	○ボランティア活動は人材育成の観点から有意義なものであるため、さらに仕掛けを工夫して奨励してほしい。	継続	学生委員会	■福祉関連事業者からの依頼が多くある。学生への情報発信をもちろんだが、ボランティア未経験者が参加しやすくなるような取り組みを実施することで、ボランティア活動への関心を高め参加者増を目指す。